

## 慈善

初秋の夕暮。時々小雨がおりてくる。ネオンが急に息づいたように光り始める。ピカデリー劇場先の橋のタモト。五つと三つ位の女の子が二人して薄暗がりにならずくまって、小さな空カンを前に置いている。

向こうから若いアベックが来て、この女の子に目を留める。女の方はすぐ目を背けて通りすぎる。男の方は女と組んでいた手はずして立ち止まる。ポケットから小銭を出したが、それをすぐ引っ返めて、別のポケットから紙幣をとりだし、カンの中へ押し込みながら体をかがめて二人の頭を撫でる。

「早くお家へ帰んな。ここ寒いよ」と声をかける。男、女に追いつく。女「いくらあげたの」と聞く。男「うん、百円札やっちゃった」。女「バカねえ、あんたって……」。それから二人は、かなり間隔をとって、口もきかずに歩いていった。

(一九五七・一〇)